

第23回 第1分科会会議録（概要）		場 所	戸塚特別出張所 地下一階 集会室
日 時	平成18年5月15日（月） 午後1時30分～午後4時30分	記録者	【学生補助員】 天野雅代 田多井さやか
		責任者	区事務局（菊地、萩原）
<p>会議出席者：25名 （学識委員：2名 区民委員：18名 区職員：5名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>① 第22回会議録 ② 提言書(案)に対する意見(要約) ③ 働き方の見直し(追加原稿) ④ 質の高い学校教育環境づくり(追加原稿)</p> <p>■進行内容</p> <p>1. 本日の進め方について 2. 世話人会・編集部会の報告 3. 提言書(案)の確認 4. その他(事務局)</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1. 本日の進め方について</p> <p>●：（リーダー）</p> <p>はじめに、本日の配布資料をご確認ください。資料を参考にしながら会議を進めていきたいと思っております。本日の主題であります3の提言書(案)の確認につきましては、時間も限られており7つ項目がございますので、一つの項目につき約15分と決めてご意見を頂戴したいと思います。進め方につきましてはこのような感じですか。では、2の世話人会・編集部会の報告に移らせていただきます。</p> <p>2. 世話人会・編集部会の報告</p> <p>●：（リーダー）</p> <p>昨日の日曜、午後3時から世話人会が開催されました。世話人会の代表を決めるということで、私が代表を務めることになりましたので、そちらの方のご支援もよろしく申し上げます。副会長は、学識委員である早稲田大学の成富先生と第三分科会の山下さんです。世話人会では、編集部会の方で話し合われている提言全体のまとめについて了承ということになりました。その後編集部会があり、4つの大項目を決め、大項目の順番を決めました。</p>			

- ①区民主体で新たな自治をつくる
- ②人をはぐくみ心を豊かに暮らせるまち
- ③土地の記憶の再生と環境の創造
- ④楽しもう新宿

このようになりました。第一分科会で関係するところは、全てに関係する形でそれぞれの大項目に中項目を入れていきます。分科会で出されたものは編集部会で直すことはありません。6月の上旬には印刷したいので、それまでにまとめた原稿を出していただきたいと思います。

3. 提言書(案)の確認

●：(司会)

お手元に配布資料②提言書(案)に対する意見(要約)があるかと思います。まず第三項目から検討していきたいと思います。それぞれご意見いただいております。各起草委員が考慮して書き直すということでしょうか。では、「子育ての社会化と子育てを核とした地域づくり」について、小原委員から一言いただきたいと思います。

●：「行政と行政の協働」という表記を分かりやすいように「行政同士の協働」に書き直したいと思います。

●：(司会)

縦割りということですか。

●：そうです。p14については、ボランティアも財政のバックアップが必要なので入れていただきたいと思います。人材を育てていくのにサポーター、コーディネーターといった色々な言葉が出ていますが、ファシリテーターを養成していくという表記にしたいと思います。

●：(司会)

他の委員でご意見、感想等ございませんか。

●：もし具体的になっているのであれば、より具体的になっている方が分かりやすい。

●：ニート等、具体的なものもいくつか出ていますので、在留外国人の方の居場所を作っていただきたい。またこの方たちも含めて地域の子育て交流できる場を作っていただきたいというように、具体的に残留外国人のことも明確に出してもらった方が良くと思います。その子どもたちが新宿区の次世代になるということを区民の方に分かってほしいので、明確に出したいと思います。

●：(司会)

具体的な文案で示してありますよね。その文案を入れていただければ良いかと思います。そのことについて他の委員で意見ある方はいませんか。では、次の「いくつかの項目で「子どもの権利」と「親の生き方支援」が重複している」というのはどなたのご意見でしょうか。

- ：いくつかの項目で、「子どもの権利」と「親の行き方支援」と内容が重複しているというのは、ここだけではないのですが、子どもの権利の所で居場所が入るのか、他のところで居場所が入るのかといったように、比較的似ていることを言っているように感じられました。それで良いのでしょうかということ伺いたと思います。
- ：(司会)
他の方ご意見ある方はいますか。
- ：色々な所で重複があると思います。色々な人が書いたため重複してしまったと思いますので、誰か一人が通して読めば良いでしょう。
- ：(司会)
整理した方が良いというご意見ですね。他の方はどうでしょう。
- ：その前の母親のところと子育てのところの内容が重複しているので調整した方が良いと思います。そうすれば量が減るのではないのでしょうか。
- ：親関係のことは、意味が重なっている所がありご指摘の通りだと思いますので整理したほうが良いですね。ただ、子どもの権利に関しては考え方にご理解のない方も非常にいますので、逆に言葉が多く使用されている方が、言葉に関心のない人の関心を引き起こすためには効果的かと思います。
- ：(司会)
これについては後ほどまたご意見をいただきたいと思います。次の‘縦割り行政の問題を提言の中にはっきり入れたい’というご意見に関しましては、小原委員の‘行政と行政の協働・改革はどういうことか’という先ほどの説明で十分かと思います。では最後ですが‘地域の中の連携が進まない問題・・・’はどなたのご意見でしょうか。
- ：ワンルームマンションが隣接し増えています。そのような中で連携を図ることが非常に難しくなっています。循環が激しく、また住民登録をしていない人たちが区役所の方で、きちんと把握出来ていない現状です。
- ：(司会)
他にご意見のある方はいらっしゃいますか。今回の地域づくりの提言の中に、この項目を盛り込んだ方が良いというご意見でしょうか。
- ：入れるとすれば、ワンルームマンションの規制をするといった意見を入れていくということです。
- ：(司会)
では、その程度のことで小項目として入れることではないということでしょうか。
- ：小項目には入れることはないです。こういった意見がありましたということ、編集委員の方に伝えていただきたいということです。
- ：新宿区の人が入りが激しいというデータに付随して、この問題を親子や子どもの関係から見るとどうなるかというコメントを入れることができますね。

- ：全国平均で比べてどうか、といったことを入れてほしい。
- ：指摘をすることで留める形になりますが、指摘によって課題を出したいと思います。
- ：(司会)

データの方は企画政策課の方で仕入れていただいて、データがありましたら、現状を記すに留めた形でまとめたいと思います。では「子育ての社会化と子育てを核とした地域づくり」はこれで終わりたいと思います。小原委員よろしく願います。次に働き方の見直しについてですが、本日の配布資料としてありますので簡単にお願います。

- ：働き方のWGで企業に勤める方のご意見を聞いたものと新宿区の男女共同参画の部署から出ているフォーラムの座談会で同じようなことが出ておりましたので、そこから抜粋して、また4名程で意見を交換しました。取り組みの方向性として3つの柱が出ております。一つは、新宿区自体がワークライフバランスを推進する企業を応援する、という意思表示をして、新宿区内の企業に広める努力をする、ということ。次に、行政として企業に地域、新宿区民を繋げる橋渡し役を担ってもらうような政策を取っていただくということ。新宿区が応援するというのは、例えば新宿区が家族でご飯を食べる日を制定してアピールしたり、次世代育成支援法で301人以上の従業員のいる企業に作らせた行動計画がどの程度達成されているかを独自に検証したり、また300人以下の企業でも独自の行動計画を作るように推奨する。また、新宿区としての目標値を設定する。また取り組めない事情を行政が調査し、行政にできる支援はないか問題自体を新宿区に考えてもらうということが1つめの柱です。2つめの柱は出てきた問題を具体的に解決していくということです。企業の空きスペースを地域が利用できるように開放したり、地区協議会に地域に密着した企業を入れるようにしたり、児童や青少年の職業体験、インターン制度の支援をしたり、外国人や障害のある人の雇用促進、介護休暇も呼びかけていたり、地域活動のための休暇の促進といったことを新宿区の目標値として設定し、地域貢献企業の表彰をしていきます。3つめの柱は目標値を達成した企業に対する優遇措置を検討するという事です。また、ワークライフバランス企業を促進するために区民も変わらなければいけないので、区民の組織作りをする必要があります。

- ：(司会)

ワークライフバランスについては前々回、話していただいてありますが、ご意見ありましたら明日までに企画政策課の方に連絡をいただいて、取り入れていくという形でよろしいでしょうか。

- ：行政がやることばかり出ているのが気になりました。また働く人の数を新宿区は把握できていません。働くことは東京都と労働局の管轄なので、やりづらい中どうしていくか考える必要があります。どれくらい実効性のあるものなのかを見なければならぬと思います。これは楽しもう新宿のカテゴリーに入れられることになっています。

楽しもう新宿という名前は変わるかもしれませんが、産業・文化・観光的なカテゴリーの中に働くというテーマが全く入っていませんので、うまく他と歩み寄りながら組み入れていきたいです。

●：ワークライフバランスだけでなく、地域活動において中間支援組織が必要。課題提案するような中間支援組織を作れば活動が展開していくと思います。

◎：これは企業の問題ですから、企業側から見た視点が必要です。このようなものがあがってきても、企業が赤字になってはしようもないことです。企業側と話し合う団体があったら良いと思います。一方的であるために企業から出来ないと言われれば跳ね返されたら終わってしまいます。

●：企業が逃げてしまうことになるかもしれないので、企業のことは無視してはならないと思います。

●：行政として企業が地域を繋げる橋渡し役を担うという項目で、働く側としては区に要望すればもっと自由な環境が作れるのではないかと意図で書かれているかと思います。地域貢献企業の表彰を行うと書いてありますが、ここがキーだと思っています。頑張っている所を承知し、評価してアピールすることで、頑張っている企業の知名度があがったりするように、頑張っているところが報われるような制度を作ってもらった上で、私たち区民もネットワークを作ることで、相互にやるべきことが見えてくると思います。

●：企業にばかり要望するのではなく、区民も応援していくことがないといけないですね。

◎：企業と一括りにするけれども、日本の企業には大から小まで一杯あります。大企業では良い成績が出ている一方、中小企業、特に小企業では経営が成り立つかどうかの境目にいる。規模が違うのにも関わらず、全く同じことを要求しても無理です。その辺のところを要望としてどうまとめるか、どのように話し合うかが書いていないと、一方的に感じられますよね。企業と一括りにせずに、大、中、小と分けて考えていけば良いと思います。

●：(司会)

そこまで細かく書き込むのは一人で作るのは厳しいかと思います。時間がないので、提起する形で良いでしょうか。

●：スローガンを掲げることは良いと思います。企業がこういったことをやるためには、行政や区民が出来ることを探しましょうという形で書いていけば良いと思います。

●：企業との連携を図ることが先ず必要です。こっちから勝手に優遇措置とか言っても、企業にその気がなければどうしようもないと思います。

◎：事業主に対して、新宿区というまちを発展させていくという規定から、大企業本位で経済が動いていく中、自分たちをどう守っていくか知恵を出し合って話し合う場がなければ中小企業も生き残っていけない時代です。新宿区民としても、大企業は付き

添っていてくれないけれども、小さな会社なら区民に応じた街づくり活動を大企業よりもやってくれる可能性はあるものの、その会社の利益があがるという見通しがなければ誰もやらないでしょう。子育て支援、ワークライフバランスだけでなく新宿区内にある中小企業が、長期的な見通しを持って新宿区の発展、子育て、企業そのものが発展していけるような学習の場や経験交流の場を作りたいとか、中小企業の団体と提携しながら、どんな利便性があるのかを研究する場を作りたいというレベルの提案に留めておいたほうが良いでしょう。要望だけ言っても企業が受け入れなければ仕方がないのでから。

●：(司会)

ありがとうございます。では時間が押しておりますので、ご意見ある方は企画政策課の方によりしくお願いします。それでは続きまして中項目の「持続可能社会に向けての子育て・教育・地域社会づくり」についてのご意見やご説明をいただきたいと思えます。

●：色々ご指摘がありますので、これを参考に変わっていきたく思います。「持続可能社会に向けての子育て・教育・地域社会づくり」の中項目は、大項目の「土地の記憶と環境と再生」のところに入るので、そういったところとの兼ね合いからしますと、どういった議題にするか迷っていますが、環境づくりやより良い街づくりの未来社会ビジョンやそれにあう子どもをどう育てていくか、という大きな課題を設定していけば、子育て・教育が他の「土地の記憶と環境と再生」とうまく調和していけるかと思えます。ご指摘のあったものを参考に練っていきたく思います。

●：全体を見ると、この項目だけテーマが大きいので、この大きいテーマを他のところとどううまくリンクさせていくにはどういった書き方が良いのかは分からないのですが、持続可能という言葉やユビキタスという言葉が具体的に何なのかということをお自身よく分かっていませんので、そこの表現を第一分科会の提言として出すのであれば、私たちの身近な生活から入っていく将来未来のビジョンなどを織り交ぜながら書いていかなければ、分かるかと思えます。表現の工夫が欲しいです。大きなテーマの話だけでなく、私たちの身近な生活も織り交ぜながら書いていけば良いと思えます。

また、ユビキタス社会というものの具体的デメリットがこれを読んだだけでは分かりにくいです。もう少しメリット、デメリットあるかと思えますので、具体的に書いていただきたいと思えます。また「もたせる」「学ばせる」というのも、表現の問題なのですが読んでみると、子どもをどのように見ていくのかという子ども観のずれを感じました。～させるという表現が気になりました。子どもが自ら自分の利からを発揮できるといったことを意識した書き方が良いと思えます。子どもが読んだら抵抗感あるかと思えます。

●：子どもが参加できるシステム作り、といった感じでしょうか。

●：そうですね。持続可能のところの他にも同じようなことを感じました。ここの表現

は大事かと思えます。

- ：これに関連したご意見が野原委員からも出ていますね。
- ：気宇壮大で、何なのかよく分かりません。また重複が非常に多いように感じましたので、整理すればもっと圧縮できると思います。また、こんなことは常識、といった感覚の記述が多いように思いました。
- ：どうしてユビキタスが子育てにとって重要なのか、ということをご存知ないために分からないのだと思います。
- ：ユビキタスという言葉自体分からないのですが。
- ：ユビキタスというのは誰にも分からないのですよ。でも絶対にユビキタスは来ます。
- ：大事なことは、言葉の理念や子どもにとって何が重要かということですね。ユビキタスが来るというのが重要ではなく、子どもにどんなメリットがあるかどうかというのが問題ではないでしょうか。
- ◎：新宿環境都市宣言、伝統文化のための塾、まち内環境づくり部隊といった提案がなされていますが、これは皆さんの合意されているものなのでしょうか。
- ：環境グループの案です。実現させていくための具体的な実現可能なプログラムとしての案です。
- ◎：みなさんの合意があるものかどうか問題です。このまま載りますので。
- ：新宿区として環境都市宣言をしてもらいたいと思っています。江戸を参考にしようということで、案を出しました。
- ：そうすると、どうして子どもに「江戸」が良いのか、といったことがなければ、どうして第一分科会が江戸といっているか分かりません。
- ：それは持続可能な社会のイメージです。
- ◎：子どもにどんな良いことがあるのかがよく分かりません。
- ：子どもには伝統文化を教えることになります。
- ◎：子育てということは、子どもが自ら考えて育つことと教えられて育てられること両方あると思います。子どもたちが自主的に何かをやって覚えるということ考えることが大切です。子どもの教育を上から押し付けているように感じました。それでは子どもが育たないと思います。
- ：色々皆さんの意見がありますが、時間が限られておりますので、今ご発言いただいた方の中で会議が終わった後にもう少しつめていただきたいと思います。江戸といった根本的なことが出てきましたので。ほかに検討しなければいけないこともございますので。ユビキタスの文章的な事に関しましては山田委員が詳しくおっしゃっていましたので、ご提案していただく形をお願いします。時間がないので申し訳ありませんが、こういうことにさせていただきたいと思います。次に「母親、父親として、働く者として、地域人としての多様な生き方設計支援」ということで4点ご意見頂戴しております。

- ：日本の文化になじまず、という表現がひっかかりました。
- ：母語が)日本語でない親の社会参加を支援というのは、文案ございますので付け加えさせていただきたいと思います。少子化対策がともすると、金を出せばよい、という感覚の世の中でどう取り組むかが大きな問題である、というのはどういったことでしょうか。
- ：少子化対策は金を出せばなんとかなると捉えがちです。
- ：私は逆に、行政はお金を出してくれないように感じていますけれども。では、これはよろしければ会議のあとに伺います。
- ：また、小項目の内容が箇条書きですけれども、これは良いのでしょうか。
ひとつの文章に違う内容が組み込まれてしまいますので、ひとつの文章でただらと書いてしまうより、何を言っているのか分かるようにすることが重要かと思いました。当初、親支援だったものに、生き方設計支援が入りましたので違うことをひとつの項目に入れておりますので、前と後ろの内容が若干異なるかとは思いますが。
- ：(司会)
続きまして青少年の自立と社会参画支援について、よろしくお願いいたします。
- ：今、皆さんから伺ったお話をリライトさせて改変しようと思っている部分だけ先に話します。まず一つ目の「支援」ですが、情報を取得したり相談のできる居場所を作って能力開発をしていくように支援しましょうというように、変えていきたいと思っています。二つ目に、ジュニア会議について扱っていますが、ここは子どもの権利条例にもあるように、社会参画をすることによって社会の中の責任を自覚する、ということにつながっています。問題の三番目なのですが、「社会教育」という今の生涯学習に当たるものが古い言葉としてあったのですが、今の生涯学習はスポーツセンターやカルチャーセンターのようなイメージになってしまっているが、社会を作っていく担い手・つなぎ手となりたいたいと思った人たちが学べる場というのが社会教育です。ですので、社会教育というところをもう少し深めて表現していけたらと思っています。そうすると青少年だけではなくてしまいますので、その辺は編集の方とも話しながらまとめていきたいと思っています。また、いただいたアドバイスに関しても適宜取り入れていきたいと思っています。以上です。
- ：(司会)
今、ご指摘があったところについても一緒にお話いただいたと思います。
歌舞伎まちと渋谷の若者が犯罪に巻き込まれる危険性についてはどうしますか？
- ：犯罪に巻き込まれる危険性については、青少年グループで当初から項目として考えてきたのですが、「安心・安全なまち」というところで総合的に取り上げていただければいいのではないのでしょうか。青少年だけが対象というわけではないので…。
- ◎：私は緊急度から言えば、盛り込んでいったほうが良いと思います。それには、「楽しもう、新宿」というタイトルから変えていかなくてははいけないと思います。産業・文

化・観光というカテゴリーで書いていくのだと思うのですが、新宿を観光のまちとして売り出していくには、光と影の部分としてこちらからハッキリと言っていけないといけないと思います。

●：では、新宿は若い人が集まる場所なんだから、「新宿というまちを安心して集まってもらえる場所にしよう」という観点から書いていけばいいでしょうか。

◎：そこで、警察と連携してなど、私たちの主に扱っている「教育」とか「親支援」とは違った角度から述べていけないといけないと思います。

●：どこに入れるかということですが、企業の開催するワークショップというところも「楽しもう新宿」というところで重なってくると思うので、まとめていきたいと思います。

◎：第五分科会から「新宿区ならではの」という部分を書き込んでいただきたいということでした。新宿区では現状こんなことがあってそれをこういうように拡大・成長させていきたいということ、一般的な傾向に終始するのではなく、新宿区ではそれに対してこんな活動をしています、という形にしてほしいということでした。

●：第一分科会で部分的に青少年を扱っていますが、他の分科会で青少年を扱っているところが全くないのです。責任が重くなってしまうのですが、今言ったところを参考にまとめていってもらいたいと思います。

●：ニートという問題はどこかの中に織り込んで述べたほうがいいのか、小項目として立てたほうがいいのかご意見を伺いたいのですが。

●：中に織り込むのはなかなか難しいかもしれませんが、小項目がひとつ増える分には全くかまいませんので。

●：歌舞伎まちは風俗営業が認められているところとなっていますが、それを子育てというところで見直していくことはできないでしょうか？ 区民会議のほうで発言として出れば、自治体のほうも強く出られるのではないかと思います。

●：歌舞伎まちにいる子どもたちというのは多くは新宿の外から入ってきていて、区民ではないということで、その子たちにどう対応していくかという問題があります。また、その売買春の中には若年層が入っているということは当然、青少年の問題として取り上げるべきだと思います。

●：男女協同参画という話がありますが、女性と未成年という社会的弱者の二つがあると思うのですが、この問題は子どもの権利に入れていくには少し不和を感じるのですがどうでしょう。男女の違いということは今まで論じてこなかったと思うのですが？

●：もはや男女平等です。

●：子どもの立場から書くのはいろいろ問題があります。言ってみれば養育拒否をされている中学生などがたくさんいる世の中です。日本の家庭が、私たちが知っているものから変わってきている状況です。ですので、子どもの立場から取り込むよりは売買春の問題として扱ったほうがここではいいのではないのでしょうか。

- ：今や性の売買は多様化してきています。自分たちのまちで売春が暗黙の了解となっている状態が果たして「子育てしやすいまち、新宿」なのか、ということです。男女・子どもの人権という問題は本当に奥深いのですが、ひとつのきっかけとして反映させていくということが大事なのではないかと思います。また、その場所がなくなることによって生じる新たな問題というものもありますから、その受け皿としての提言も準備していかないといけないと思います。今回はそこまで盛り込む時間がありませんので詳しいことは第二次区民会議に持ち越しということで…。
- ：社会教育とおっしゃっていましたが、できたら頭に「新しい」と入れて欲しいと思います。なぜなら、今は都も区も社会教育主事という専門職がいます。今はこれを両者とも廃止の方向にもっていています。そんな状況の中で社会教育と唱えても、昔の話をしているような感覚を与えてしまうのではないかと。それから、民間の方でも中央青少年連絡会というのがあるのですが、そちらも目覚ましい活動はしていない。そんな昔の体制を社会教育と捉えられてしまうのではないのでしょうか。ですから、「新しい」や「21世紀に向けての」などの冠が欲しいところなのですが。
- ：(司会)
では山田委員、そのこのところの調整をお願いします。
それから、秋田委員から前回の会議についてまとめのプリント一枚が廻っていると思います。これについてはどこに入れていきますか？
- ：後半部分に矛盾するところがあるので、その部分は取り下げただいて結構です。あとはお任せいたします。
- ：(司会)
次は学校教育のグループですが、ご担当者、宜しくお願いします。
- ：皆様から特に意見はいただいておりません。
それから書き方なのですが、学校教育の部分は全体のフォーマットに従うと書きにくくなってしまいます。現状・課題という形を取らずに、一本化して書いてしまってもよろしいですか？
- ◎：全体の形として決まっていることですので、フォーマットに従っていただきたいと思います。
- ：実際学校教育としてあるものに現在の課題としてどうしようか、という視点からのアプローチをしているので、こういう書き方になるのです。将来あるべき姿、という将来像から小項目を作るのはとても大変な仕事になってきます。
- ：(司会)
6行程度にまとめて書いてしまってもいいと思います。「新宿のまちで子どもたちが健やかに育つには学校が充実していることが大事です」というような内容ではどうでしょうか？
- ：授業の質の向上は、簡単そうですがごく難しいことですよね。ここに書くようなことで

もないのですが、あるべき姿を考えたときに一つ解決策を上げるとすれば、最後に書いてあるような「現場の裁量権を大きくして欲しい」ということが具体的な提案なのです。

◎：先ほど青少年のところから出ていた、「社会教育」と「青少年の不登校」を学校グループの提案に入れていったらどうですか？それとも中項目を立てたほうがいいのか、中項目を少し改変してこの内容を盛り込めるようにするとか…。

●：私は、こここのところは学校教育というところなので、それとは別に社会教育の項目を設けた方がいいと思います。現状の生涯学習の観点を見直すための社会教育というように別のものになるのではないかと思います。次世代育成の計画を見ていると、学校教育と生涯学習が大きく扱われていますよね。ところが我々のところではそれほど大きく扱っていないので、その辺を補完する意味でも、別の中項目を挙げた方がいいのではないのでしょうか。親支援の中項目が統合されると言う話もありましたので、それらをまとめれば、もう一つ中項目が入り込む余地も出来るのではないのでしょうか？

●：社会教育に関しては、小学校・中学校は割りと対応してくれたので、それを出た後のことが心配になりました。

●：ただ、「社会教育」と障がいを持った方への支援などの「社会的教育」はちょっと意味合いが違うのかなと思います。

●：ニートは別に、中項目として新たに足します。「社会的教育」は青少年ではなくて、別に設けると考えています。

●：それは、今学校自体も地域に対して開いていて、その地域と学校の関係がどうなのかということですね。前の意見は、学校以外のことだから、この二つは分けて考えた方がいいと思います。

●：ニートが生まれないようにするのが「社会的教育」、そのニートに対してどうしていくか考えるのが青少年グループなのではないのでしょうか。

●：前の発表のときは学校選択制度のことでだいぶ意見があったと思うのですが？今期は2校で選択制度の結果、抽選があったそうで実際に抽選にもれた子どももいます。そのような内容が盛り込まれていないのですがどうですか。現状を把握していかないと来年度の防止策にならないのでは？

●：そういう話はでたのですが、いちいち書き出すとキリがなく、字数制限も越えてしまいます。どうしたらいいのでしょうか？

●：それから、障がい児教育のことですが新宿区は高等学校に進むと支援がなくなってしまって別の区に移る方が多いという事例も盛り込んでいかないと…。

●：学校教育のところ、外国籍児童の教育について書いてないので、子どもの権利の方か教育の方で載せてもらいたいのですが、それぞれのグループの方如何でしょうか？

●：これは新宿区の現実問題として起こっていることなので、教育のところに入れないと、と思います。この文言のまま入れて欲しいということですか、趣旨を入れて欲しい

いということですか？

●：では教育のところ以小項目で盛り込むということをお願いします。

●：(司会)

では、最後になりましたが、子どもの権利について話し合いたいと思います。

●：大人を啓発するための提言になっていますが、子どものためのワークショップを開催するなど、子どもへのアプローチが必要です。また、権利ばかりを教えて義務については言及しなくていいのかという、なぜ「子どもの権利」が必要なかがわかるようなつくりにしていかないと受け入れてもらえないと思います。子どもワークショップを実践している身としては、今は学校教育の中にも入ってきています。学校の授業の中にも、小学校六年間のうちに一度は子どもの権利について学べるような仕組みづくりを盛り込んでもらえたらと思っています。それから、今新宿区は児童相談センターが主催して、子どもの虐待や権利にかかわる NPO との連携の仕組みができてつあります。その意見交換会で出るのが、行政の子どもの部署の縦割りの連携と NPO 団体が一堂に会して意見交換する場を作してほしいという要望がよく出ています。できればそのような仕組みも提言に入れていただけたらという希望です。

●：(司会)

次のご意見をお願いします。

●：「子どもの権利を実現する」、「参画する仕組み」という表現に引っかかったのですが。「認める」、「尊重する」のほうがいいのではないかと。

●：人によって「権利」という言葉から受ける印象が違うので、最初にあったように子どもの権利とは何なのかという定義づけを初めにしてから述べれば問題はないのではないのでしょうか。

◎：「公立と私立幼稚園における費用負担の問題」や「医療費助成」や「学校評議会」や「障がい児の問題」をここに置くのはどうなのでしょう？ 十分な議論がされていないのではないかとと思うのですが、ここにおいてしまっても大丈夫ですか？ 中項目を支えるものなのでは？ 他の中項目と並列になっているのが疑問です。

●：(司会)

学校教育のほうの提案も紆余曲折があり、権利に関しては後半に必要に迫られて急遽作成したということがあるので、今まで内容のすり合わせができていなかったと思います。

●：経済的支援の問題は前々会の区民会議でも入れるべきだということになりましたよね。「公立と私立幼稚園における費用負担の問題」が出ていますが、協定で、助成金がないと3歳児で幼稚園にいけないという縛りがあります。だったら、「3歳児枠を増やしていきましょう」という書き方をしていけばいいのではないかと思います。

●：本来は、区民に対するサービスをどうするかということだと思うので、そのこと自体を見直さないといけないのではないのでしょうか？

◎：生活の保障をする、学びの権利を保障する、と出していけばもう少し整理がつくと思うので。一律ではなく、ケアがより必要な方という言い方をしては？

●：中間発表で乳幼児グループの一番の問題として扱ったのが、3歳児の行き場所がないということでした。ここの部分がお母さんたちがすごく悩んでいる部分もあると思います。今悩んでいる方に対してできることは、選択肢を広げてあげることではないでしょうか。

●：ただ、子どもにとって良かれと思っていることが、親にとって楽なものになっている気がします。私は、手厚い保護というものに疑問と不安を抱えています。見えないところがどんどん増えていくというのが問題点ではないでしょうか。

●：(司会)

今、経済格差があることで選択の機会が均等でない、というまとめ方でよろしいでしょうか。

◎：全体の構成の話ですが、最初「われらの新宿」と言うところにあった「子どもの権利」が、「心豊かに過ごせるまち」というところにはいるので、今まであったのと一緒になります。なので、「子どもの権利」の中項目を一番上において、下に「母親父親として」などを配せばいいのかなと思っています。そうすると、大枠の話をここで押えていただいて、「子育ての社会化と子育てを核とした地域づくり」のところ幼稚園・保育園の話を入れていただくとはとまるのではないのでしょうか。

●：最大の子どもの権利は「生きる」ということです。それを誰が守るのか、が大事になると思うのです。また、親が子どもの権利をどう判断するのか、親が一番重要な要素です。だから親が判断できるような情報をきちんと提供できていないとならないと思います。

●：権利が先生のおっしゃるような最初のところにくるならば、権利侵害のところを考えていくと、予防のための教育とか、介入のためにはどういう仕組みが必要とか、相談制度について、の三つが子どもの権利を考えると、重要だと思います。後の細かいところは下の方に入れていったほうが分かりやすい気がします。

●：(司会)

ようやく7つの項目について検討し終わりました。

最後に、連絡等ございます。

4. その他(事務局)

○：(菊地)

5/19までに今日の議題となった項目を提出してください。それを今度世話人会のほうにお送りします。編集部会が5/30なので、このときまでに決まってしまう。第一分科会としてはどのようにしますか。

●：(司会)

代表の方を少人数でという案が大勢ですね。

- ：今日話し合ったことは、上にあがっていく段階でどんどん落ちていってしまうのが現状だと思います。ですので、これからはこの議題を次につなげるよう、区民会議を続けていくことが必要だと思います。

○：(菊地)

その話は他の分科会でも出ていますので、何らかの形で継続しようと言う事も提案に盛り込んでいってください。今と同じ形で、というのは難しいかもしれませんが、みなさんがやっていこうと言う気持ちがあるのであれば、区としても受け皿を考えていかなければならないと思っています。

それから、今杉山先生と話していたのですが、これから起草の段階で皆さんが書かれるレポートを、一度持ち寄って整理した方がいいのではないかとすることなのですが如何でしょうか？18日に集まるのはどうでしょうか？これをしないと、全員で集まる機会はもうないので先生もご心配されていたのですが。

19日に原稿を出していただいて、22日に世話人会に提出すると同時に、第一分科会の原稿は皆さんに送ります。22日の直近のところでは起草委員会をやっていただいて、30日に微調整の原稿を出すという形がいいでしょうか。厳守してください。お願いします。

基本構想審議会のまとめ役を第一分科会からお一人お願いすることになるのですが、どなたがよろしいですか。

- ：高山さんがいいんじゃないですか。

○：(菊地)

はい、それでは高山さんということで報告します。

提言の最後に第一分科会の活動の記録を載せたいと思います。今中間のまとめまで分かっているので、その後の部分を報告をお願いします。

それから、最終提言のお知らせをこれから高山さんのほうから発送する予定です。当日は12時半開場13時開演、16時までです。一部が発表、二部が提言書提出です。

次の分科会は6月の初旬に一度、発表をどうするかについて話し合いの場所を持ちたいと思います。この発表者を一人誰かお願いします。編集代表を田谷委員、発表者を石井委員ということでお願いします。

●：(司会)

では本日はこれで終了いたします。長い間お疲れ様でした。